

審査結果報告書

2023年 1月 30日

主査 氏名 宮地 鑑



副査 氏名 天野 英樹



副査 氏名 岩村 正嗣



副査 氏名 草野 央



1. 申請者氏名 : DM19013 齋藤 大樹

2. 論文テーマ :

Atrial late potentials are associated with atrial fibrillation recurrence after catheter ablation

(心房細動アブレーション後再発と心房遅延電位との関連性の検討)

3. 論文審査結果 :

心房細動の進展には、心房筋のリモデリングが関与しているが、包括的に評価することは難しく、有益な手法はまだ確立されていない。心房加算平均心電図 (P-wave signal-averaged electrocardiography: P-SAECG) により検出される心房遅延電位 (atrial late potential: ALP) は心房のリモデリングの評価に有用で、ALP は発作性心房細動から持続性心房細動への移行予測に有用であるとされている。本研究では、ALP とカテーテルアブレーション後の心房細動再発との関連を評価・検討している。2015年8月から2019年8月に当院で初回のカテーテルアブレーションを施行した発作性心房細動の患者でP-SAECGはカテーテルアブレーション前に施行した190例を対象とした。ALPはthe root mean square voltage during the terminal 20ms (RMS₂₀) と filtered P-wave duration (PWD) の2項目のうち、ALP陽性はRMS₂₀<2.2 μV と PWD>115 ms のどちらか、もしくは両方を満たすものと定義した。190例中、21人(11%)で心房細動再発を認めた。患者背景では両群間に差は認められなかったにも関わらず、ALP陽性率はrecurrence groupで有意に高い(86% vs. 64%, $p=0.04$)ことが示され、多変量解析ではALP陽性は心房細動再発の独立した予測因子であった(オッズ比: 3.83, 95%信頼区間: 1.05-14.1, $p=0.04$)。カテーテルアブレーション前のP-SAECGにおいて、ALP陽性がカテーテルアブレーション後の再発と関連していることが示された。以上のように本論文は新しい知見、および臨床的示唆を含んでおり、学位論文として相応しいものとする。